

短歌（投稿順）

この時代に有線である有難さ観音様の手と手繋がる
庭に咲くネジバナ登る蟻二匹ピンクの螺旋我は見つめる
四十度迫る危険な酷暑日を冷房の部屋で今日も留守番
雨のなか横断歩道小走りで小犬抱えて渡りて行きぬ
新宿の都庁へ向う道に有る動く歩道は今も有るやら
水瓶が大きな鍋か本当は何に用いし縄文の土器
猛暑日の続く夕暮れ茅蜩の涼し初音に心の和む
だけど僕にしかできない事があるまっすぐ行くヨこのまま生くヨ
霜月もヴーさん問うも「まだです」と答えるのみにて仕事続ける
働らかねば暮せぬ亡親の時代を想ひ年金制度の今世に感謝す
此の頃は暑さに呼び名付いており酷暑の日々に体を護る
内視鏡検査「大腸」「胃」と済むは七月半ば梅雨明け近し
猛暑日に課題考察ひねりある足もと深く眠る老柴

皆野 大澤 貴夫
下田野 新井 節子
皆野 根岸 詩子
国神 藤原マキ子
上田野 四方田利男
皆野 萩原 初恵
下田野 浅見 豊子
皆野 林田 凛太
皆野 打木 昭廣
三沢 新井 叶子
三沢 新井 民子
皆野 引間 万亀
皆野 太幡琉美花

俳句 榎本順江 選 投稿数 17 句

予報士の鞭の先なる酷暑かな
(詳)猛暑の日々、暑さ対策をしながらの毎日です。明日が少しでも涼しい日であるよう天気予報から目が離せません。予報士の持つ棒が暑さを追い払うムチのようですが、その先は又も真つ赤な文字の猛暑。予定を変え家にお盆を迎えました。晩年のお父様は親しい仲間と将棋を指すのが一番の楽しみだったとのこと。勝ち負けはどうでも、良き仲間と過ごした時間は至福の時だったことでしょう。盆提灯のあかりが懐かしい思い出を揺らして、三句目、時代と共に町並も変わって来ますが、町の一角に昭和を思い起こす家並が残っていたりと郷愁に駆られます。秋の気配を感じながら懐かしさに浸る作者です。

将棋指す父の幻影盆提灯
初採りの茄子供えけり亡き夫へ
下田野 新井 節子

秋に入る昭和息づく町レトロ
皆野 根岸 詩子
雛子親子現われ楽し峡の庭
下田野 新井 節子

沢風や巡礼笠の水潜寺
国神 土屋 良彦
球場のブラバン歓喜夏空へ
皆野 島 弘

水蜜桃むく手おだやか恙なき
皆野 太幡琉美花
幼子の手に朝採りの黄のトマト
皆野 櫻井 早苗

陽光を撥ね返す赫百日紅
三沢 新井 民子
軒下に掛かる提灯夏祭り
国神 藤原マキ子